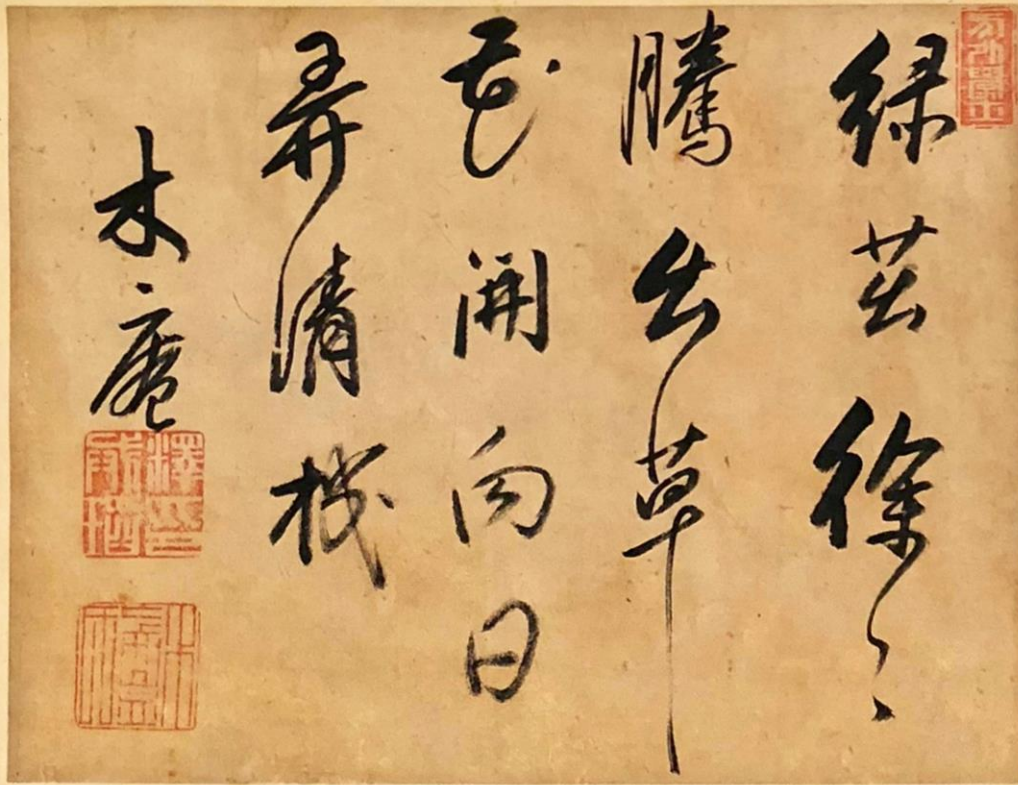


華岳山恩林寺発行

頭陀袋 93



令和二年三月号



写真：木庵禅師 早春の詩

お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう

中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

岐阜県高山市下岡本町2779

☎(0577)34-1245



「いまどきの若い者は？」

最近の世相を嘆く言葉の中に「今時の若い者は…」というのがある。これは現代ばかりでなく、昔からあった

言葉の

ようである。



沢庵禅師は、徳川三代将軍

家光公の側近として知られるが、

禅師は、「今どきの若い者は。」

と、嘆く年寄りには、自分たちの

三十年前のことを思い出して、

嘆くが、実は三十年前の自分は、

大した者ではなかったはずだ。

自分は三十年、いろいろ見えて、目が肥えてきたから言えるのである。自分が若いころは、

そのころの年寄りが、同じことを

言っていたのに違いない。だから、

巡送りなんだよ。と言っている。

沢庵和尚の時代は人生五十年。

今は人生百年といわれる。

私たちの若かった頃、すなわち、

五十年、六十年前のことを

比べて、「今どき」という言葉が

出てくるのです。

昔「明治は遠くなりけり。」と言いましたが、今や昭和・平成・令和…と時は流れ、「昭和は遠くなりけり。」であります。



昭和時代のブリキ看板

昭和の人間、あの戦後の惨めな生活から高度成長、昭和元禄、使い捨ての時代、贅沢を

謳歌してきた年配者は若い人達に昭和の魂、昭和の価値観を、伝えてきたでしょうか？

この嘆きは私たち年寄りが、次世代教育をお座なりにしてきた結果なのです。

難しいことを考える事もせず、楽な方へ、楽な方へと、マスコミや時流に流されてきた結果です。

しかし、まだ遅くはありません。私たちの血は、日本人の良いところは、徳川の時代、明治、大正の時代、そして昭和へとながれ、

脈々として繋がっているのです。これを、次の時代に引き継がなければなりません。

若い人達に語りかけましょう。

自分の体験談をもっと語りましょう。



この頃のマスコミの関心事、相続や財産の行方。終活。墓しまい。仏壇しまい。

どこの医者か名医で、あの医者の処方は効かない…等々

もっと人間らしく

生きるためには。

少し冷静に考えてみましょう。



住職合掌

(住職、口演原稿より)

涅槃忌・春の彼岸会

檀信徒総回向ご案内

涅槃忌とはお釈迦様の亡くなつた旧暦、二月十五日に涅槃図をお祀りし、お釈迦様の一代の業績を思いご供養する日です。当地は気候の都合もあり、三月のお彼岸に合わせて行うことが多いです。

恩林寺では

三月二十一日(土) 午前十時

彼岸会と合わせ勤めます。

檀信徒様の先祖供養、

歴代檀信徒総代様の感謝法要

を合わせ勤めます。

当日は、

●宗猷寺様(高山市)

●正溪寺様(関市)

●清見寺様(各務ヶ原市)

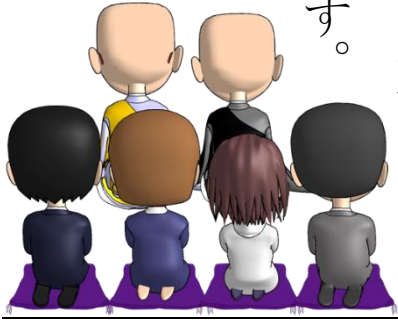
殿司、鳳雅禅士に出頭を

お願いしております。

皆様、お誘い

合わせの上

ご参詣ください。



短信

*四国道後温泉在住の建築士、

田中修司様より、

この度、自著刊行された

『昭和の奇人、村上桂山』文芸社

発行。を寄贈くださいました。



*高山市丹生川町正宗寺東堂

原田道一老師より、

自著『であうところわがいのち』

寺史『靈源、靈林、靈昌』を

寄贈くださいました。

ご印施感謝申し上げます。



小僧さんの
僧談事 そうだんごと

節分が過ぎ、暦の上では春になりました。私は春休みに入り、身の回りの整理に追われる日々：部屋を片付けていると、色々と思い出の物が出てきますよね。

捨てられないな！懐かしいなあ！
と思いつつも、「断捨離」をしています。みなさんも思い切って捨ててみてはいかがでしょうか？

しかし、物に対する感謝の気持ちは忘れないようにしていきたいでしょう。

小僧合掌



華岳山 恩林寺

住職 古田 正彦

徒弟 小森 鳳雅